

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
和解剂 和解少陽剂 2		
<p>さいこかりゅうこつぼれいとう 柴胡加竜骨牡蠣湯</p> <p>傷寒論</p>		<p>小柴胡湯 1/2 量 -甘草 +竜骨・牡蠣・桂枝・茯苓各 4.5 g・大黃 6 g 水煎し服用する。</p> <p>表証を誤下して邪が内陷し、少陽枢機を阻滞すると同時に厥陰（肝、心包）にも影響が及んだ状態であり、少陽、厥陰の気機が阻滞され流展できないために全身が重くて転側もできず、三焦が阻結され水道が通じないため尿量が減少し、厥陰で鬱した肝火が心を上擾するために胸が張る、驚きやすい、うわごとなどがみられる。</p> <p>小柴胡湯で少陽枢機を疏通し、桂枝で残存する表邪を解すると共に少陽枢機の開通を補助する。苦寒の大黃は厥陰邪熱を下泄し、竜骨・牡蠣は鎮心安神し、いずれも厥陰を安和にする。利水の茯苓は水道を通利して三焦の阻結を緩和すると共に、安神にも働く。病勢が深く病状が急であるから、緩和の甘草は除いている。</p> <p>本方（柴胡加竜骨牡蠣湯）の鉛丹は毒性があるために使用されず、鉛丹を除いた処方を外感病以外に用いることが一般的である。</p> <p>少陽、厥陰を通利し、清熱、安神、祛痰などの効能を備えているので、内傷七情で、肝鬱化火して脾を傷害し、痰が生じて少陽、および厥陰（肝・心包）の枢機を阻滞したために生じる不眠、動悸、めまい、情緒不安、遺精、インポテンツなどにも適用する。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 比較的体力があり、心悸亢進、不眠、いらいら等の精神症状のあるものの次の諸症；高血圧症、動脈硬化症、慢性腎臓病、神経衰弱症、神経性心悸亢進症、てんかん、ヒステリー、小児夜啼症、陰萎</p>